

ネギコガの 有害動植物リスク分析

平成 24 年 2 月

横浜植物防疫所

第1章 ステージ1：ネギコガに関する有害動植物リスク分析の開始

1-1 開始：（開始するに至った問題の本質、目的）

ネギコガは現在検疫有害動植物として取り扱われているが、検疫有害動植物については、平成16年5月21日に公表された「植物検疫に関する研究会報告書」で「検疫有害動植物については、輸入植物の用途や輸送形態も考慮し、可能な限りリスクの定量的な評価を含めて、適時適切なPRA（有害動植物リスク分析）を実施し、それぞれのリスクに応じた措置となるよう検証し、対応していくことが適当。」とされた。このため、ネギコガの有害動植物リスク分析を見直すこととした。

1-2 有害動植物リスク分析地域の特定

日本全域と特定する。

1-3 対象となる経路及び潜在的検疫有害動植物

1-3-1 経路

ネギコガが発生する地域から輸入される寄主植物を経路と特定する。

1-3-2 潜在的検疫有害動植物

ネギコガ（学名：*Acrolepiopsis sapporensis* (Matsumura)）を潜在的検疫有害動植物と特定する。

1-4 情報

生物学的な情報は、別紙のとおり。

1-5 開始の結論

検疫有害動植物の取り扱いについては、「植物検疫に関する研究会報告書」において、付着する植物の用途や輸送形態を考慮しつつ、随時適切な有害動植物リスク分析を実施する旨の指摘があったことから、有害動植物リスク分析を実施する必要性が生じた。

本種を潜在的検疫有害動植物と特定し、また、本種の発生国の寄主植物を経路と特定し、我が国全域を対象として、植物検疫措置に関する国際基準 No. 11「検疫有害動植物のための有害動植物リスク分析」に基づき、有害動植物リスク分析を開始する。

第2章 ステージ2：有害動植物リスク評価

2-1 植物検疫上の取り扱いに影響するネギコガの特性等

2-1-1 系統

植物検疫上考慮すべき系統に関する情報は見つからなかった。

2-1-2 未発生有害動植物のベクター

ベクターとなることに関する情報は見つからなかった。

2-1-3 日本での分布状況及び公的防除の有無

ネギコガは、北海道、本州、四国及び九州に分布している。

本種は、公的防除の対象ではない。

2-1の結論

ネギコガは、北海道、本州、四国及び九州に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群の間で寄主植物に対する被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。よって、有害動植物リスク分析は中止する。

別紙

和名	ネギコガ ^{4)、5)、7)}
学名	<i>Acrolepiopsis sapporensis</i> (Matsumura) ^{4)、5)、7)}
英名	allium leafminer ^{5)、7)}
分類	チョウ目 (Lepidoptera) ^{5)、7)} アトヒゲコガ科 (Acrolepiidae) ^{4)、5)、7)}

分布：(日本) 北海道、本州、四国、九州⁴⁾
(世界) 韓国、中国、モンゴル、ロシア、ハワイ^{1)、4)、7)}

寄主植物：ネギ、タマネギ、ニラ、ニンニク、ノビル等のネギ属植物^{5)、7)}

形態・生態：成虫は翅の開張 9 mm 内外。全体は灰黒色。静止時には体を包むように翅をたたむが、前翅の後縁中央にある白色斑が背面中央に現れ目立つ。卵は長さ 0.7 mm。短楕円形で乳白色。葉に点々と産卵される。老熟幼虫は体長 7～9 mm、淡緑色で褐色の条斑があり、細い毛がまばらに生える。蛹は体長 6 mm 内外、レース状の繭の中にあつて、淡黒褐色。年に 10 回前後発生し、成虫態で越冬するとみられる。⁷⁾

被害：幼虫はネギ属植物の葉を加害し、ニラでは花も加害して種子生産を低下させる。孵化幼虫は葉肉内に潜入して食害し、生育が進むと葉の内側から食害する。葉にははじめ小白点や、やや蛇行した線状の白斑が現れ、やがて不規則な白斑あるいは透明斑となる。発生が多いと、葉全体が白化して枯死する。⁷⁾

ベクター・

系統：植物検疫上考慮すべき系統等が存在するとの記述はなく、日本未発生の有害動植物のベクターとなる旨の記述もない。²⁾

防除法：ネギ、タマネギ、ニラ、ニンニク等においてネギコガに対する登録農薬がある。⁶⁾ 幼虫が葉の内部に生息するため、被害が現れてからの防除は難しいことから、防除は幼虫の潜入防止に重点をおく必要がある。³⁾

文献：1) Budashkin, Y. I. and H. H. Li (2009) Study on Chinese Acrolepiidae and Choreutidae. (Insecta:Lepidoptera). *SHILAP Revta. lepid.*, 37(146), junio 2009:179-189.
2) CAB International (2011) Plant Protection Database (1972-2011). Silver Platter International N. V. (<http://ovidsp.ovid.com/>)
3) 梶原敏宏・梅谷献二・浅川勝 編 (1986) 作物病虫害ハンドブック. 養賢堂、東京：1446pp.
4) 九州大学大学院農学研究院昆虫学教室 編 (1999) 日本産昆虫目録データベース. 九州大学大学院農学研究院昆虫学教室. (<http://konchudb.agr.agr.kyushu-u.ac.jp/mokuroku/index-j.html>)
5) 日本応用動物昆虫学会 編 (2006) 農林有害動物・昆虫名鑑増補改訂版. 日本応用動物昆虫学会、東京：387pp.
6) 独立行政法人農林水産消費安全技術センター. 農薬登録情報検索システム. (<http://www.acis.famirc.go.jp/>)
7) 梅谷献二・岡田利承 編 (2003) 日本農業害虫大事典. 全国農村教育協会、東京：1203pp.